

2006年6月12日

## 市民による諫早干拓「時のアセス」2006 シンポジウム 水門開放を求めて－市民版代替案で赤字縮小・環境再生

### 開催のご案内

よみがえれ！有明海訴訟を支援する全国の会  
有明海漁民・市民ネットワーク  
諫早干潟緊急救済本部・同東京事務所

一昨年佐賀地裁決定は、進行中の国の大型公共事業工事を差し止めるという、わが国では過去に例を見ない一大快挙でした。その後、この画期的な決定は高裁・最高裁で取り消されたものの、佐賀地裁決定による8ヶ月間にも及ぶ工事中断期間は、今年度末までの事業の完成を不可能にさせたため、諫早干拓事業（諫干）は二度目の事業再評価（時のアセス）の試練に立たされることになりました。初めての「時のアセス」は2001年に実施されましたが、事業再評価第三者委員会は「環境への真摯かつ一層の配慮を条件に事業を見直されたい」との答申を行い、これを受けて農水省は干拓規模を縮小するという「見直し」を行いました。しかし干拓規模の縮小が、なぜ「有明海環境への配慮」と言えるのでしょうか。

### 諫干の赤字額 6400 億円、代替案では 900 億円

この度私たちは、行政版「時のアセス」とは異なる「市民による諫早干拓『時のアセス』2006－水門開放を求めて－」と題した、いわば民による事業再評価報告書を作成し、6月9日に九州農政局事業再評価第三者委員会の全委員にお送りしました。この報告書では主に、(1) 高裁や公調委判断とは異なって、やはり有明海漁業不振の原因は諫干にあることが漁獲統計分析からさらに明瞭になったこと、(2) 司法判断を待つまでもなく、調整池の水質悪化原因は明らかに諫干にあること、(3) これら2要因をも考慮に入れた諫干の費用対効果を算定した結果は0.19にすぎず、その赤字額は6400億円もの巨額に上ること、(4) 潮受け堤防撤去や第三水門設置などの代替案の費用対効果も併せて試算したところ、現行6400億円の赤字を900億円にまで縮減できることなど、事業の問題点や今後のあり方の提言まで含めて総合的に分析・考察されています。

つきましては私ども4団体が協同で、この報告書の発表シンポジウムを下記要領で開催することと致しましたので、ご案内申し上げます。

### 記

日時 6月25日（日曜）午後1時15分開場 1時30分開会 終了予定午後5時

会場 長崎ビューホテル [長崎市大浦町2-33（大浦海岸電停前）電話095-824-2211]

入場料 1,000円（報告書代込み）

### 主なプログラム

- 講演 佐々木克之（北海道自然保護協会理事、前中央水産研究所）  
「調整池水質問題や有明海漁業不振と諫早干拓との関係」
- 宮入 興一（愛知大学経済学部教授、前長崎大教授）  
「諫早干拓縮小計画の費用対効果」
- 羽生 洋三（有明海漁民・市民ネットワーク事務局）  
「総括－市民による時のアセス結果と代替案」
- パネルディスカッション「原因裁定・時のアセス後の展望と地域興しの方向性」  
錦織 淳（弁護士、元首相補佐官）  
堀 良一（弁護士、「よみがえれ！有明海」訴訟弁護団事務局長）他

※ 本件に関する照会先： よみがえれ！有明海訴訟を支援する全国の会事務局長 岩井三樹  
(090-3600-8602) / 有明海漁民・市民ネットワーク事務局 羽生洋三 (090-3349-8574)

※ 報告書はホームページで公開しています。http://www2s.biglobe.ne.jp/~isahaya/